

春季彼岸会修行



満堂になった彼岸会



第64号

発行所

浄土真宗本願寺派 本願寺神戸別院
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号

Tel: 078-341-5949

3月に春のお彼岸を迎える。本願寺神戸別院では3月17日から23日までの一週間が春のお彼岸期間となつた。各ご家庭へのお彼岸参りだけでなく、別院へお参りいただくこともあり、賑わいを見せる期間となつた。

コロナ禍の頃と比べ、お参りを再開された方が増えただけでなく、訪問の際の感染へ警戒する重苦しい雰囲気も薄れ、かつてのお彼岸らしいお彼岸を取り戻しつつあるといえた。

お彼岸の期間には19日から21日にかけて本願寺神戸別院の本堂で『春季彼岸会』の法要が修行され、また中日の20日には『納骨者総追悼法要』も併修された。

この法要においても、コロナ禍以降、大きく減っていた参拝者数も昨年ごろから回復を見せ始め、中日には約100名の参拝となり、昨年から20名以上の増加となつた。続々と参られる参拝者へ追加の椅子を準備する場面も見られ、コロナ禍からの回復が感じられる一幕となつた。

『春季彼岸会』の法要是午後2時から喚鐘の音が本堂に鳴り響き、別院僧侶の結衆が外陣に入堂した。続けて堂内に樂の音色が響き、輪番含む別院僧侶が内陣に入堂し法要が始まつた。

お勤めは3日間、19日には『仏說無量壽經』、21日には『仏說無量壽經』、21日には『仏說阿彌陀經』が用いられた。出勤僧侶は、マスクを取つてのお勤めとなつたため清々しい表情での読経であつた。

法要後には、副輪番、そして輪番から挨拶を述べることとなつたが、特に21日に挨拶を行つた山内副輪番は3月末で退職することもあり、公の場で副輪番としてお話しする最後の機会となり、名残惜しいものとなつた。

広島市の正覚寺から瀧渕良孝師を迎えてご法話をいただいた。彼岸会に際し、先立たれた方が生まれてゆき、私たちもまた生まれてゆくお念佛の「みおしえ」を聞かせていただく得難い時間をとなつた。20日の法要の後には、お彼岸のお斎としてぼた餅を参拝の方々にお配りした。毎年恒例のぼた餅を受け取られた方々は、笑顔で別院を後にされた。



21日の山内副輪番の挨拶。

阪神・淡路大震災 物故者総追悼法要

震災より30年目を迎えた1月17日、本願寺神戸別院では『阪神・淡路大震災物故者総追悼法要』が修行された。

震災以降毎年修行されている『阪神・淡路大震災物故者総追悼法要』は今年で29回目となる。当法要は今年で29回目となる。当日は110名が参拝された。

この法要は午前中には『帰敬式』が行われる。今年は10名のお申し込みをいただき、受式者の方々は本堂でおかみそり受け、法名をいただかれた。

午後2時になると『阪神・淡路大震災物故者総追悼法要』が始まること。奏楽員の奏でる樂の音色にあたる。

この法要は午前中には『帰敬式』



が行われる。今年は10名のお申し込みをいただき、受式者の方々は本堂でおかみそり受け、法名をいただかれた。

午後2時になると『阪神・淡路大震災物故者総追悼法要』が始まること。奏楽員の奏でる樂の音色にあたる。

この法要は午前中には『帰敬式』

が行われる。今年は10名のお申し込みをいただき、受式者の方々は本堂でおかみそり受け、法名をいただかれた。

午後2時になると『阪神・淡路大震災物故者総追悼法要』が始まること。奏楽員の奏でる樂の音色にあたる。

この法要は午前中には『帰敬式』

が行われる。今年は10名のお申し込みをいただき、受式者の方々は本堂でおかみそり受け、法名をいただかれた。

お勤めは『正信念仏偈』を用いる正信念仏偈作法で行われた。参拝の方もともにお経を唱える中、散華と焼香がおこなわれ、各々の哀悼の意をもつて法要はしめやかに勤修された。

法要後は『1・17「いのち」を考える研修会』が開催され、法要の後には宗門関係学校より中学生から大学生まで5人の学生が作文の朗読を行つた。

震災より30年ともなれば現在の学生に震災の経験をした者はいなくなつてしまつたが、多くの人が伝える震災の脅威と起こつてしまつた悲嘆は次の世代へと受け継がれているとわかる作文であつた。

震災より30年ともなれば現在の学生に震災の経験をした者はいなくなつてしまつたが、多くの人が伝える震災の脅威と起こつてしまつた悲嘆は次の世代へと受け継がれているとわかる作文であつた。

そして研修会の講師はラジオ界の生きる伝説と呼ばれる浜村淳氏であった。御年90歳を迎えた浜村氏は、震災当時の景色や人々の思いや働きを伝えた。崩れる建物、人々の叫び、その真っ只中を経験した浜村氏の言葉は、聞く人に重く響くとともに、心にはつきりと當時の光景を映し出した。

わせて輪番と別院僧侶が入堂していつた。

別院仏教婦人会 ～春季彼岸会～ ぼた餅のご接待～



彼岸会にお供えされたぼた餅

春季彼岸会期間中の3月20日（木）には、法要にご参拝された皆様へ神戸別院仏教婦人会の皆さまがご用意したぼた餅を配布した。前日より仕込みを始め、準備したぼた餅はご参拝の皆様より大変ご好評をいただきており、毎回楽しみにされ、法要にご参拝いただく方も多い。神戸別院仏教婦人会では夏の暁天講座での朝粥や、秋の彼岸会でのおはぎ、11月の報恩講でのお斎などご用意し、皆様の法要ご参拝をお待ちしている。



子ども会遠足

モダン寺 土曜子ども会 ～春の遠足～

5月17日、モダン寺土曜子ども会では春の遠足が開催した。今回の行き先は須磨シーワールド。参加者は子どもと保護者あわせて約30人で、懸念された雨はすぐに止み、とても賑やかな遠足となつた。

遠足では様々な生き物との出会いが子どもたちを楽しませてくれたが、特に盛り上がつたのはイルカやシャチのショーダラフタ。カッパを着ていてもなお濡れるほどの水しぶきを被つたが、子どもたちは大喜びで楽しんでおり、良い思い出の遠足となつた。

兵庫・岡山テレホン法話集

揖保郡太子町 善導寺

天野真隆

衣替えの時、小さな可愛いマフラートセーターを見つけました。それらは連れ合いが息子二歳の誕生日にプレゼントとして、夜を徹して編み上げたものです。

ために嬉々として手を動かす連れ合いの姿に、やつと「母の思い」に気付かせてもらつことができました。

私は編み物は出来ませんので、その時まで全く気付いておりませんでしたが、一言で「編む」と言いますが色々な手順が必要であるということを、教えてもらいました。

一つは「糸の選択」です。糸選びのポイントは、先ず糸の性質。その次に色合いで。着てくれる・身につけて

一つは、「糸の選択」です。糸選びのポイントは、先ず糸の性質。その次に色合いで、着てくれる・身につけてくれるであろう人の肌に合う物、そして似合う色も選ぶ必要があります。

八年前五十三歳の時癌で往生しました。母は体型はぼっちやりしていて、すごく明るく、裏表のない、家族や友人に對しては相手のためになるとおもうことであれば見過ごすことが出来なくて、時にはズバツと物を言う人でしたが、私はそんな母が大好きでした。また母は大変器用な人で、服だけでなく、鞄や財布に至るまで、何でもよく作ってくれました。子どもの頃の私は、母の手作りの品が好きで、いつも身につけていまし

たが、小学4年生の時、友人にからかわれて以来、一切身につけなくなりました。ですから、今となっては何一つ私の手元には、残っておりません。なぜ、一つでも残しておかなかつたのか…と、後悔します。

身につけなくなった時も、母は黙つて何もいいませんでしたが、きっとさびしい思いをしていたと思います。

今、二〇数年の時を経て、子どもの

ある日、連れ合いが私に向かって「お母さん達の時代なら、手作りにするのは当たり前であつたかも、でも今は買つた方が手間や材料費を考えるとねえ：」と言いながらも、さも嬉しそうに我が子のためにとせつせと手を動かします。編み物に励む姿を見るにつけ、母なるが故に、子どもに対する思いや願い、慈しみの心が、形になつて仕上げられ

くれるであろう人の肌に合う物、そして似合う色も選ぶ必要があります。二つは「編み方」です。編み方によつて編み棒を交換したり、編む強さを変化させる。ことに幼児は成長が著しく、常にサイズを測りながら、ピッタリになるように編み続けていき、サイズが合わなくなつたときには、編み直しがきくようにしてあるのです。

三つは、作業時間です。育児、家事の合間をぬつて、時間を作り出す工夫して、一編み、ひと編み、子どもの寝顔を見ながら、心を込めて編み上げていきます。

ていたことを気付かされたのです。私は合戦で、私のために仕上げて下さったのはたらき『こそが、「南無阿弥陀仏』でありましたと、気付かせて頂くことが出来ました。

阿弥陀如来は、淨土という世界に止まっておられるのではなく、いつも私のために、休むことなく日夜はたらいて下さっています。そのはたらきの相(すがた)が私の口に「南無阿弥陀仏」と、こぼれ出て下さっています。ですから、お念佛は決して呪文などではありません。お念佛は、阿弥陀様の「私を一人ぼっちにしておくことが出来ない。捨てておくことが出来ない」という願い・誓いが言葉となつて、現れ出て下さったものです。

この口に「南無阿弥陀仏」と出で下さる度に、私は「決して一人でなかつた」と気付かせて頂き、日々を精一杯生き抜かせて頂きたいと思っています。



別院ホームページにて、兵庫教区年僧侶の会で作られた3分程度の動画が配信されています。ご視聴ください。

過去に配信されたご法話を
編集し掲載いたしました。



<p>日 時</p> <p>4月／5月／6月／7月／10月／11月／12月</p> <p>第2土曜 13:30～15:30</p> <p>※今年度は第1土曜から変更になりました</p>	<p>各回</p> <p>参加費</p> <p>1,000円 (申込不要)</p>	<p>第1回</p> <p>4月12日(土)</p> <p>兵庫教区の寺院の諸相</p>	<p>第2回</p> <p>5月10日(土)</p> <p>覚如上人と兵庫教区の寺々</p>	<p>第3回</p> <p>6月14日(土)</p> <p>蓮如上人の有馬湯治</p>	<p>第4回</p> <p>7月12日(土)</p> <p>蓮如上人と播磨</p>	<p>第5回</p> <p>10月11日(土)</p> <p>英賀坊の創建と真宗のひろがり</p>	<p>第6回</p> <p>11月8日(土)</p> <p>石山合戦と摂津・播磨</p>	<p>第7回</p> <p>12月13日(土)</p> <p>江戸時代の真宗のひろがり</p>	<p>講 師</p> <p>おかむら よしじ</p> <p>岡村 喜史 氏</p> <p>本願寺史料研究所 上級研究員</p>
--	--	---	---	--	--	--	---	--	---

本願寺神戸別院では、毎月第一土曜日の午後1時30分から仏教講座を開催しておりますが、今年度の開催は「第二王曜日」となり、「モダン寺第二土曜仏教講座」として開催いたします。

今回の講師は全7回を通じて本願寺史料研究所上級研究員の岡村喜史氏をお招きし、「兵庫教区での真宗の伝播と発展」をテーマに、兵庫を中心とした地域での寺院の様子や蓮如上人の活動をご講義いただきます。

2025年12月まで全7回。興味がある方はぜひ、足を運んでみてください。

モダン寺土曜仏教講座

別院令和大修復工事 今後の予定

令和大修復工事の進捗についてご報告いたします。前回の紙面掲載後、教区内寺院や別院門信徒様への懇意ご依頼について慎重に協議を進めてまいりました。そして令和7年1月20日、ご門主様のご認証を得て正式に入札手続きへと移行しました。

2月7日には、神戸市競争入札参加資格者名簿【格付A】に基づき、本願寺参与を考慮した4業者、現別院建設業者及び現建物管理業者を含む計6業者を選定。2月19日に現場説明会を開催し、3月14日の入札会の結果、施工業者は星光ビル管理株式会社に決定しました。工事は5月20日に着工し、令和8年3月中旬の引き渡しを予定しております。今後とも皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

退職

2025（令和7）年3月31日を以て山内理史副輪番、渡邊顯誓の2名が退職いたしました。長い間、お世話になりありがとうございました。



曰高証知さん

新職員紹介



4月1日付で曰高証知さん（奈良教区高市組称名寺）が神戸別院に着任いたしました。よろしくお願いいたします。



現場説明会の様子



本願寺神戸別院 2025年の常例法座

6月

竹内 英昭 師 姫路市教蓮寺

7月

松田 義量 師 相生市慈眼寺

8月

休 座

9月

井村 智仁 師 高砂市真淨寺

10月

四夷 法顕 師 西宮市信行寺

11月

長谷 都子 師 姫路市光明寺

12月

赤松 普宣 師 赤穂郡専稱寺

2025年度 本願寺神戸別院 法要行事予定

【恒例法要】

永代経法要	6月 22日(日)	午後 2時
暁天講座	8月 1日(金)～3日(日)	午前 7時
盂蘭盆会	8月 15日(金)	午後 2時
秋季彼岸会	9月 22日(月)～24日(水)	午後 2時
報恩講法要	11月 26日(水)～28日(金)	日中:午前10時、夜:午後 2時

除夜会 12月 31日(水) 午後 4時

元旦会 1月 1日(木) 午前 7時

阪神・淡路大震災物故者総追悼法要

「いのち」を考える研修会 1月 17日(木)

春季彼岸会 3月 19日(木)～21日(土) 午後 2時

※20日(金)は、納骨者総追悼法要を併修

【日時勤行】

お晨朝 毎日 午前7時

【毎月の法座】

第二土曜仏教講座	第2土曜日	午後1時30分
常例法座	15日・16日	午後2時